【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度 (評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや木十分である
D: 不十分である

学校名 佐賀県立佐賀東高等学校

1 前年度 評価結果の概要 ・本校の課題は「入試倍率」「希望する進路実現」「部活動成績や生徒会活動、学校教育活動の広報」であり、さらなる高みを目指した教育実践を行い、「唯一無二の学校づくり」を推進し、5年後・10年後の佐賀東高校を創造することである。
・学習用パソコンや電子黒板を利用し、アクティブラーニング(主体的・対話的で深し学び)を実践しながら、生徒自らが学ぶ意欲を高め、学力向上と人間カアップの取組みを進めている。学校評価アンケートにおいては、各項目において概ね高い評価をいただいた。 また、地域行事に関しては、生徒会(運動部・文化部)が主体的かつ積極的にボランティアとして参加し、地域に貢献している。
・働き方改革の推進として、長時間労働の縮減や部活動指導のあり方、学校行事や教職員の事務的作業の効率化、また、それらの検討・見直しに取り組んだが、期待通りの成果は得られていない。次年度の課題でもある。

学校教育目標

本年度の重点目標

校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、頼応な個性を尊重し、生徒の目的意識を高め、保護者・地域から厚い信頼を得ることができる教育を目指す。 ア 使命に生きる・・・・・学校、社会、人生において、自らに課せられた役割を見いだし、志を立て、それを現実のものとすることができる資質を養う。 イ 自主自律を尊ぶ・・・自分が負える責任を正しく理解し、正しい判断のできる能力を育成したうえで、自ずからなる節度を持ち、自由の重みに耐え得る人間となることを大切にする。 ウ 明朗清新を喜ぶ・・・誰とでも公平・公正な態度で向かい合い、明るく豊かで活力のある、心身ともに健康な成長を遂げることを目指す。

重点取組内容・成果	指標 ————————————————————————————————————			5 最	冬評価 				
達評価項目					B 40-7-17		# i+ 88 /c 4 -57 /F	主な担当者	
	重点取組	含量松福	具体的取組	*##	最終評価		学校関係者評価	4	
評価項目	取組内容	成果指標 (教恤目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○生徒一人ひとりに、明確な希望進路を持たせ、それぞれの進路実現に向けた取り組みを実践する。		 各種ガイダンス等を通じて、生徒一人ひとりの自己理解を深めさせる。 ・模擬試験等を活用して自己の現状と目標との距離を意識させる。 	A	・9月の連路希望調査では未定」の生徒が2年生で696、1 年生で2196。 ・1月末時点での3年生の道路決定単は7796、未定の生徒 はそのほとんどが現在出願中であり、目標である5596以上 は十分達成できる見込み。	A	・生徒の進路実現のために、尽力をしていただいている。学校推薦型人試や総合型選抜への対応も充分していただている。また、学習指導だけでなく、面接や小論文などへの対応もしていただいている。保護者へのアンケートの結果も進路指導体制に満足しているとの回答が、昨年より増えている。	進路指導部	
		業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」の回答「そう思う・だいたいそう思う」を80%以上にする。	・1回以上の研究授業・授業研究週間を実施し、教職員の授業力向上を図る。	A	・2回目の授業アンケートは、予定通り12月に行った。「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」の回答「そう思う・だいたいそう思う」は848%だった。 授業研究週間を11月に行い、この期間中に研究授業も行われ、3分の2の教職員が参加していた。	A	 前年度のBより改善されている。基礎学力においても 「身についている」との回答が多い、これまでのアン ケート結果を精査して、授業の質の向上に努めてもらい たい。 	教務部	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者 への思いやりや社会性、倫理観や正義感、 感動する心など、豊かな心を身に付ける教 育活動を実践する。	(いじめ・SNS等)件数を2件以内	・防犯講話やHR活動等において、情報モラル教育、人権教育を実施 ・指導力ードを活用し早期サインに気づき早期対応を行う。 ・いいねカードの内容を全校にアナウンスする。	В	・特別指導件数としては、6件であった。内、今年もSNSによる中傷事家が起きたことは残るであった。また、無断アルンイトも起きており、必要な生徒が社会情勢として増えているのは事実であり対処について、検討が必要である。	В	前年度のCより改善しているが、SNSに関するリテラン一教育をさらに充実する必要がある。アルバイトについては、佐賀県教育大綱を踏まえて検討していく必要がある。	生徒指導部	
	組の充実 ●担任・学年と連携を図り、困難を抱えてい	止等のための取組、事案対処等)について	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュア	A	・学校生活アンケート、心理検査を行い、いじめ等について早期に把握でき、対応販金考える金融を開催した。 担に1回、教育相談部会を行い、学年、保健室からの情報を関係職員と共有することができた。SC、児童相談所、行政とも選携、情報共有ができた。 ・サポートルームも有効活用することができた。	A	・サポートルームの設置や、保護者、また、関係機関との密に連携して学校運営にあたられています。 教職員 が一丸とおり、学校全体で共通認施を持って、教育目標の連成のために尽力されています。 教育相談体制についても、非常に完美しているの象を受けます。 いじめ対 応も適切に行われています。	保健部(教育相談	
	の教育活動を推進する。	というと感じる」と回答した生徒80%以上	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を 活用した授業に取り組む。 ・郷土の人材を活用した講演会を実施する。	A	・1月に「データから見る佐賀県の魅力」という講演を実施し、98%の生徒が帰った価値を再認識できた。または、どちらかというとできたと回答。また、90%の生徒が佐賀に譲りや受着を感じていると回答し、80%の生徒が佐賀に往れたい、または、どちらかというと住みたい考えがあると回答した。	A	・県全体として取組む課題であるため、引き続き「佐賀 を誇りに思う教育の推進」「に注力していただきたいと思 います。 ・佐賀の良さについて、認識不足や自覚していない、ま た、まだ知らないことが多いと思うので、しっかりとした 情報を提供・周知することをお願いします。	図書研修部	
● 健康・仕つ/川	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒70%以 上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行、保護者への個別の連絡	A	・生活習慣アンケートを実施した結果、「健康に良い食 事をしている」生徒は86.9%だった ・12/7に食育に関する講演会を1年生対象に実施した。	A	「食」は人格形成の基本になると考えており、より充実していただきたいと思います。	保健指導部	
		電話を5件以内	- 学期始めの交通指導、危険箇所での交通 指導を登校時に行う。 - 交通ルール5原則に関連する資料を、配布 する。 - 交通講話を実施する。	В	クレームは度々同じ方から受けており、理解していただくために毎朝、指摘場所に適切な自転車運転を行う呼びかけや指導を継続した。交通本域は10件で重大事故も起きていないがルール・マナー連守の向上と相関した指導を継続して行っていく。	В	・クレームの内容が、同じ人からの同じ内容なら改善に 努めるべきだと考えますが、本当に改善すべき内容な のかが不明なので何とも言えない。また、生徒汁の問 題ではないため、中々難しいことではあるが、継続して 交通事故ゼロを達成してほしいと思います。過学路の 整備も必要である。	生徒指導部	
)業務改善・教職員の働 方改革の推進	間の削減	時退勤日の設定や職員朝礼は隔日(月水金)開催、会議終了時刻を明示するなど、業 務削減を実践する。年間を通して月平均	・部活動休養日と年休取得を積極的に推進	В	定時退勤日については、黎職員ごとに、部活動快養、非年 活用し取得できている。時間外在投時間については、許順外在投時間 間の不同のと説(中年度をつかり、こうで、「い時間外在投時間 間の「回り、一般では、「い時間外を投 時間の「日本のでは、「い時間外を投 がら超勤者は、10月(14名)、11月(14名)、12月(9名)とは 15日報を達成した。また、時間外在投時間の月平均を数値 (5日報を連成した。また、時間外在投時間の月平均を数値 で表すと、ほととの月で作者を下回った。10月(18年 17分割)、年間年 「分割)、11月(前年 - 19分割)、12月(前年 - 31分割)、年間年 分かたが、平均年休取得日数は昨年度は123日、本年度 は、14日であった。なお、47名の正規職員は、48日、本年度 は、14日であった。なお、47名の正規職員が同じは、年休 を計算しませませます。11日以上取得した正規職 員は、48人中41名と85%を超える。	В	・難しい問題だと思います。教職員個人のQQL向上が、ひいては教育全体の質向上につながるという文脈において必要なこだと思います。また、教園目標は可視化しやすいたの管理しやすいと思われますが、実際の業務の見重しが大変大本だと思います。すべてを平準化することは難しい事だとは思われますが、特定の教職員に偏っていないか、再度業務内容を精査することを望みます。	管理職	
年度重点的に取り組む	独自評価項目								
重点取組			最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (數值目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
)実践的・体験的な活動 充実	◎互いを尊重し、主体的に取り組む生徒会 組織を目指す。 〇佐賀東版「SDGs」の推進	○1年間で奉仕活動に参加したことのある 生徒70%以上 ⑤生徒会活動に関するアンケートを実施し、 「主体的に参加できた」の回答80%以上	また、部活動単位でも参加するように、顧問 との連携を強化する。 ・全校生徒に、生徒会の一員であるという自 覚をもたせ、生徒会役員を中心に様々な活	A	・ポスター掲示だけでなく、イルミネーションや放送で節電意 贈の高橋につなげることができた。SDGsの取り組み状況 は、「しっか)・だいたい取り組めら、7回を含まり等であった。 ・地域などのボランティア活動への参加者は特定の人や部 活動に多い傾向があり、奉任活動に参加したことがある生 後は479である。 ・学校行事やクラスマッテは参加者、運営共に主体的にでき ていた。	A	・活動を通して、実社会の中で自分や学校の立ち位置、 役割をより理解できる活動であって欲しいと考えます。 地域質験を推進されており、精秘的に交流した。 女好関 係にあると思います。特に北川副校区の小・中学校は コミュニティ・スクール/学校連宮協議会があるので、 一歩路み込んで、運港は標業され県内のモデル校と なってほしいと考えています。	生徒会	
県内外への学校情報の 信 唯一無二の誇り高き学	した、「唯一無二の誇り高き佐賀東高校」の 積極的な情報発信 ★本校生徒による出前講座、地域ボラン ティアの取材・情報発信を主とした「社会に 開かれた学校」をPRする。	キャラクター「ヒガッチ」を利用した学校紹介動 画、学校案内パンフの作成 〇佐賀東高校広報部Instagramの総登録者数	・地域で活躍する卒業生たちの取材を行い、情報を発信する。	A	学校部介製画(SAGM・バスクールウェビナー)の再生回数 は病内金素的セナフの218回2024年3月度のできった。 2種類の学校・レフ、スポーツ料のチラン、各部活動の部分 動画、進路洋電管の部分動画も制作し、現内外に情報を 位えることができた。 ・位質重英位は動節itatokの登録者数は、年間目標人数 170名大きく上回る1,185名となった。総再生回数も目標と していた約37回を実施し、数2070回とかった。bistayam も登録者、再生回数分展2070回とかった。bistayam も登録者、再生回数分展2070回とかった。bistayam も登録者、再生回数分展2070回とかった。bistayam	A	 積極的な発信の姿勢を評価します。この成果を、どう 志堂校選択へつなげていけるのか。その仕掛けを考え たいところで、今後も、「唯一無一の時り高さ佐賀東 高校」の積極的な情報発信を継続して実施してくださ い。 	広報部	

次年度への展望

・佐賀県教育大綱vol3を踏まえて、「高い志と佐賀への誇り、そして優しさを持った「骨太な子ども」を育てること。また、「枠」に取り込まれることなく、トライ&エラーを重ねながら、個性を伸ばすことのできるような教育課程及び教育環境等の整備充実を推進していきたい。
・多様化する入試環境に対応するために、進路指導体制を強化していく。教科指導力の強化とともに、進路指導力の強化も視野に入れた取り組みを推進していきたい。
・スポーツ科の新設を機に、佐賀東高校が唯一無二の学校となるために必要不可欠な要素である「進学実績の向上」と「競技実績の向上」というビジョンを、広く世間に周知する。また、そのために、年度末に立てた「学校改革のためのActionブラン10を推進していく。

様式1(高等学校)